

国語科学習指導案

令和4年5月24日(火) 第1校時 第4学年2組(5年1組教室) 指導者 田島 友香

【単元】伝えたいことをはっきりさせて 附属小学校を紹介しよう(『新聞を作ろう』)

考察	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
育成を目指す資質能力	比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解し、使うことについての知識及び技能 ((2) イ)	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える能力 (B (1) イ)	言葉がもつよさに気付くとともに、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度
子どもの実態	- 情報を比較し、書かれている内容や情報の順序について整理することができる。 - 紹介する対象の詳しい内容を集めるのみにとどまり、目的に合わせた文章を書くための必要な語句を集める子は少ない。	- 文章を書く際に、「初め」「中」「終わり」の文章の構成を意識して書くことができる。 - 文章を書く際に、自分の伝えたいことを順に書くことはできるが、伝えたいことを絞り、その内容の中心を明確にして書くことに課題がある。	- 書く内容の中心を明確にすることで、読み手に伝わりやすくなると気付いている。 - 一度書いた文章に満足してしまい、目的に合わせて、文章を読み直したり、書き直したりする子は少ない。
価値	- 新聞は、複数の短い文章(記事)から構成されており、読み手は、複数ある記事の中から、見出しを頼りに読みたい記事を選んで読むことができる。読み手に伝わる新聞を書くとした場合、書く内容の中心に合った言葉を集めたり、集めた言葉を書く内容の中心に応じて選択したりする力が求められる。また、1年生とその保護者に向けて新聞を書く活動を設定することにより、子どもたちは、1年生の姿と3年前の自分たちとを重ね、1年生の「学校のことをもっと知りたい」という思いに共感することができる。附属小学校のリーダーである6年生が1年生と関わる姿を見た4年生は、自分たちも北校舎のリーダーとして、1年生に附属小学校のことを教えてあげたいという思いをもつこともできる。さらに、1年生が附属小学校で楽しく過ごせるような新聞にしたいという意識が生まれる。相手と目的を明確にすることにより、活動への必要感が高まり、文章の改善に向けて粘り強く取り組むことができる。 - 附属小学校のことにについて新聞に書き表すためには、紹介したいことを集める必要がある。その際、集めた情報を比較し、記事の内容を選択したり、情報を分類し、一つの記事にまとめたりしていくこととなる。また、読み手の興味を引く見出しにするために、集めたことの中から必要な語句を判断することによって、比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方について理解し、目的に合わせて使うことができる。	1年生とその保護者に分かりやすい新聞とするためには、内容を明確にして書く必要がある。そのため、見出しと記事の内容や段落相互の関係に着目して書き表すこととなる。また、分かりやすい新聞とするために、友達と協力して書くことは、互いの記事に対する考えを聴き合い、自分や友達の記事に繰り返し向き合えるようになる。そのため、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える能力が高まる。	附属小学校は、自校給食やシンボルのくすの木、遊び場の象徴である石山など、たくさんの特徴的なものがある。子どもたちにとって身近な題材であるため、1年生とその保護者に紹介したいという思いをもつことができる。その思いをもつことで、自分や友達の書いた記事を読み直したり、書き直したりすることにつながる。そのため、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養うことができる。
見方・考え方	自分が伝えたいことと記事の内容や記事の段落と段落との関係を捉えたり問い直したりしながら、書く内容の中心を明確にした新聞の書き方に気付くこと。		
今後の学習	4年「中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書く(『伝統工芸のよさを伝えよう』光村図書4年下)」において、中心となる語や文を要約して、考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にしながらいっしょに作る学習へと発展していく。		

指導と評価の計画

目標	伝えたいことが明確になるように、見出しと記事の内容や記事の段落相互の関係を意識して文章を書くことができる。		
言語活動	1年生とその保護者に附属小学校のことを紹介する新聞を書く活動		
評価 規準	(①知・技) 伝えたいことについての情報の比較や分類の仕方、見出しに必要な語句などの書き留め方を理解して使っている。((2) イ) (②思・判・表) 「書くこと」において、伝えたいことを明確にし、見出しに合わせた内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えながら記事を書いている。(B (1) イ) (③主体的態度) 進んで書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりや段落相互の関係に注意し、学習課題に沿って、新聞に書き表そうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○新聞のモデルを基に、新聞で伝えることのよさや、分かりやすい記事に必要なことを話し合い、学習課題を設定する。 学習課題 1年生が附属小学校で楽しく生活できるように、伝えたいことをはっきりさせて、附属小学校のことを紹介する新聞を作ろう	○見出しや写真で伝えたいことを明確にできる新聞のよさに気付けるよう、新聞と見出しや写真を含まない紹介文のモデルを比較する時間を設定する。
ふかめる	1	○新聞のモデルを基に、新聞の特徴や作り方を話し合い、学習計画を立てる。	○自分たちが見付けた新聞の特徴を基に学習計画を立てられるよう、新聞完成までに必要なことを話し合う活動を設定する。
	1	○附属小学校について1年生に伝えたいことを集め、記事にしたい内容を決める。	○伝えたいことを集めることができるよう、中心に「附属小学校」と書かれたウェビングマップを「ロイロノート」に用意する。
	2	○自分の伝えたいことについての情報を集め、見出しの言葉を話し合う。	○集めた情報を基に、見出しに必要な語句を考えられるよう、集めた情報を比較・分類できるシートを「Jamboard」に用意する。
	2	○伝えたいことが似ているペアで、割り付けを考えたり、アンケートやインタビューなどの調査を行ったりする。	○新聞全体で伝えたいことと、それぞれの記事で伝えたいことを考えられるよう、「一番大きく取り上げたい内容」や「写真や図、表などの大きさや場所」などの割り付けを考えるための視点を提示する。
	5	○新聞を作成する。(本時4/5)	○伝えたいことを明確にしながら、よりよい新聞になるよう、記事を繰り返し修正できる台紙を「スライド」に用意する。
	休み時間	○完成した新聞を1年生に渡す。	
ふかえる	1	○新聞を読んだ1年生とその保護者の感想を基に、学習の成果をまとめる。	○友達と繰り返し記事の構成を考えたことのよさを実感できるよう、1年生とその保護者からの感想を読む機会を設定する。
			○よりよい新聞になるよう、伝えたいことを明確にして、繰り返し記事の構成を考えたことの成果を記述している。 <ノート③>

本時の学習（１１／１３時間目）

ねらい 見出しの言葉と記事の内容や、記事の段落相互の関係に着目して互いの文章を推敲することを通して、書く内容を明確にした記事を書くことができる。

評価項目 伝えたいことを明確にして、見出しの言葉を決めたり、見出しに合わせて記事の内容を書いたりしている。

<スライド②>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
１ 本時のめあてをつかむ。 ・ 前は、メディアルームを紹介する新聞記事を書いたな。私の記事は１年生に分かりやすい記事になっているかな。 ・ １年生に分かりやすい新聞にするためには、見出しと記事の内容を合わせる必要があるよな。自分の記事はどうだろう。（課題意識）	○前時までの自分のグループの学習の進捗状況を学習計画と照らし合わせて振り返れるよう、前時に書いた振り返りの記述を読み返すよう促す。 ○伝えたいことをはっきりさせて新聞を書くという課題を解決する見通しをもてるよう、１年生に分かりやすい記事に必要なことを問いかける。 ○見出しの言葉と記事の内容に着目して、記事を書いたり読んだりできるよう、見出しと記事の内容が合っていないモデルを提示し、そのモデルの分かりやすさについて問いかける。
めあて：１年生が楽しくすごせるように、見出しや記事の内容を確かめよう	
２ 見出しの言葉に合わせて記事を書いたり、書いた記事を読み合ったりして、新聞を書き進める。 ・ さらによりよい新聞にするためには、自分だけじゃなくてペアの友達にも見てもらおう。友達からは、「たくさんの本が大集合！」という見出しと記事の内容が合っていないとアドバイスもらったよ。 ・ メディアルームにはたくさんの本があることを知らせればいいね。前の時間にメディアルームの先生に本の種類についてのインタビューをしたから、そのことを記事に書こう。 ・ 記事の初めに伝えたいことをはっきりさせることで、記事全体の文章が分かりやすくなるね。私も、初めの文章を「メディアルームには色々な種類の本があります。」って書くと、伝わりやすくなるかな。 ・ 友達から、「など」の言葉を使うと、まとめていて、何のことか分からないから、本の種類について詳しく書いた方が１年生が楽しめるとアドバイスもらったよ。確かに、他にどんな種類があるのかも伝えないとだね。絵本や図鑑について書いてみよう。 ・ 一つの記事でたくさんのことを伝えていたけど、友達からアドバイスをもらって書き直したら、見出しと記事の内容が合った記事になって、１年生に分かりやすい新聞になったな。（課題を解決した意識）	○自分やペアの友達の書く記事を読み合いながら、見出しと記事の内容の関係についての考えを明確にできるよう、さらによりよい新聞にするための方法を問いかける。 ○見出しの言葉と記事の内容が合わないペアが、見出しの言葉に合う内容を見付け、文章を書き直すきっかけを得られるよう、「Jamboard」で集めた、自分たちが伝えたいことに関する情報を見返すよう助言する。 ○記事の初めの段落には、自分の伝えたいことを書けばよいことに気付けるよう、見出しの言葉に合わせて記事の書き始めに伝えたいことを書いているペアを取り上げ、記事の初めの段落で工夫していることを問いかける。 ○ペアの友達の書く見出しと、記事の内容や段落相互の関係とに整合性をもたせることができるよう、「見出しと記事が合っている」「記事と記事が合っている」などの推敲の視点を用いながら、同じ内容の新聞を書く別のペアの友達と読み合うよう促す。 ○書き加えたり修正したりした文章が、１年生が楽しく過ごせる内容や伝えたいことが明確な記事の内容であることを確かめられるよう、推敲の視点を用いて、ペアの友達と音読するよう促す。
３ 本時の学習の振り返りをする。 ・ １年生が附属小学校で楽しく過ごせるような新聞になったよ。読んだ１年生やそのお家の人からの感想を早く知りたいな。	○学習の達成感や課題を実感し、次時の学習への見通しをもてるよう、「できたこと」「次に取り組みたいこと」の視点を基に、ノートに本時で学習したことの振り返りを記述するよう促す。